

「修習技術者キャリアアップ セミナー」の報告

修習技術者支援実行委員会
高橋健一（士・建設）
原洋介（士・建設）
宇都宮陽一（士・情報）

1. セミナー概要

日 時 平成 24 年 3 月 10 日（土）
10:00～18:00
主 催 公益社団法人日本技術士会
修習技術者支援実行委員会
会 場 葺手ビル 5 階 AB 会議室
(交流会 AB 会議室)

2. 研修会／交流会の構成

キャリアアップセミナー	10:00～18:00
1. セミナーの主旨, アジェンダの説明	10:00～10:05 渡邊
2. 委員長あいさつ	榊
3. 講演	
3.1 講演 1 業務遂行能力の修習について	10:05～11:50 講演 1: 平塚
3.2 講演 2: 技術士の問題解決能力	講演 2: 廣瀬
3.3 講演 3: キャリアアップ事例	講演 3: 中村
4. グループ討議	12:00～17:45
4.1 グループ討議の進め方について	12:00～12:50 渡邊 12:50～17:00 コーディネーター
4.2 グループ討議	(宇都宮/関/中村/中嶋)
4.3 発表(4 グループ×8 分)	17:00～17:45
4.4 講評	17:45～17:55 原
5. 閉会にあたり	17:55～18:00
交流会	18:15～19:45

3. 講演について（午前中）

グループ討議を行う前に、受講者へ前提として身につけてもらいたい事柄がある。それが講義 1 から 3 であった。そういった意味で、企画者である坂口・渡邊両委員の想定どおりに進行できたのではないだろうか。その理由は以下の内容報告によるものである。

◆ 3.1 主旨・アジェンダの説明について

司会の渡邊委員よりセミナーの主旨やアジェンダについて説明があった。

グループ討議を通じ、自分の意思を明確にして、技術士として活躍するまでのロードマップを描くことを目的の一つとしていることや、グループ討議の進め方についてなど、分かり易く丁寧な説明があり、参加者もスムーズにグループ討議へ入ることができた。



写真 1. 司会（渡邊委員）

◆ 3.2 委員長挨拶について

榊委員長のあいさつでは、修習技術者支援実行委員会についての説明や修習活動の進め方についての話があった。

参加者の方々へ、「一日も早く技術士になって下さい。」と熱く声を掛けた。



写真 2. 挨拶（榊委員長）

3.3 講演 1 について

最初の講演では、セミナーのプロローグとして平塚副委員長から技術士/修習制度について大枠の話があった。

全体的な説明の中で、平塚講師が強調したことは『自分のしたことが社会に対してどれだけ影響を与えることになるのかをよく考えよう』ということだった。

特に印象的だったのは、基本修習課題の説明である。課題にある能力を身に着けると、いったいどういった効果が期待できるのか、それを各項目に分けてわかりやすく示していたことは好感が持てた。

本人曰く“教科書的な内容”だそうだが、セミナーの導入部にふさわしいらしい講演だった。



写真 3. 平塚講師

◆ 3.4 講演 2 について

廣瀬講師からは、業務経歴、会社紹介、担当業務に続き、問題解決事例の説明があった。

事例 1 の冒頭、問題の解決方法として「勘、根性、経験」ではなく、「現状把握⇒原因の特定⇒最適な対策の選定⇒対処⇒今後への防止策／記録」という論理的手順の説明があった。事例自体は、状況を把握しにくい「トラブル処理」に関する内容で、最終的には「ロット不良が原因であった」とのことだったが、日頃の情報収集と様々な状況の想定に基づいて見つけ出したという、根気強さも印象的であった。

事例 2、事例 3 は、課題解決に関する事例で、目的・制約条件・要求などを踏まえた上で、ユーザに対してどういった思考・アプローチを経て、成果物を提供しているかの説明があった。

途中、同じ部門に同種の業務を担当する同僚がいないとのことで、このことが「自分がやらねば」という高いモチベーションの一因になっているのではないかと感じた。

日々の業務において、常に高い意識で取り

組むことが、問題解決能力を磨くとともに、キャリアアップに繋がるということを伝えていただけた。



写真 4. 廣瀬講師

◆ 3.3 講演 3 について

中村講師からは、実際の業務の課題抽出～問題点設定～解決策提案～実施の効果という、まさに実例をあげての事例発表があった。

業務遂行の中で講師自身がどういう状況に置かれ、その時に感じた疑問から技術士としての着目点、解決に至る思考過程を披露した。細部に定量的な数値を示すことの指導を含めたのは好印象である。

こういった技術士の考え方を具体的に示したことは、受講者にとって非常に参考になるのではないだろうか。

また、講演の最後にあった『技術士になったつもりで考えよう』というのは、筆者（高橋）が各地で伝えてきたメッセージでもあり、修習技術者に対して今後も強く訴えて行きたい言葉である。



写真 5. 中村講師

以上が講演1から3の報告である。受講者はこれらの講演の流れを理解してくれたであろうか。

大枠から細部に至るということを講演者に依頼したことは企画者の意向どおりだろうし、講師の方々はそれに十分応えていたと思う。

4. セミナー全体の考察

1班：中嶋委員、2班：関委員、3班：宇都宮委員、4班中村委員がコーディネーターを務め、4班集体にてグループ討議が行われた。

各班共にブレインストーミングやKJ法を活用し、活発な討議が行われた。

各班共に与えられたツールを有効活用し、ブレインストーミングやKJ法などの手法を活用している点においては共通していたが、如何に広い視野で全体像を把握するか、何にどのようにして焦点を絞るかについてなどについて各班の特徴が出ていたことは、とても印象的であった。



写真6. セミナー状況

グループ討議の結果については、班ごとにプレゼンが行われた。プレゼンや質疑応答を通し、各班の長所・短所の確認が行われた。

各班共に良くまとまった内容であり、論点の絞り方やスライドの色使いなど、細部まで質疑と議論がおよび、有意義な発表プレゼンとなった。

最後に、原副委員長より講評があった。

今回のセミナーで求められた「限られた時間の中で、今までに得た知識や経験を基に、討議を重ねながら順序立ててまとめていく」



写真7. 発表状況

能力は、まさに技術士に求められる能力であることを指摘した上で、各班の特徴について触れた。更に、今回のセミナーの終了条件として、先端研にて発表することを条件に上げた。



写真8. 原副委員長

5. 情報交流会について

情報交流会をセミナー終了後に AB 会議室にて行った。参加者からの質問も多く、各自が自由に意見交換を行うなど、有意義な時間となった。

中でも、技術士取得に向け、決意を新たにされた方や、先端研での発表を表明される方々には、私たちも勇気づけられた。

以上